

きかせて沖島のこと！若人の集い（研究会）報告書



滋賀県近江八幡市
沖島自治会・沖島離島振興推進協議会

平成27年8月23日（日）10時～
沖島コミュニティセンター2階 大会議室

きかせて沖島のこと！若人の集い（研究会）報告書

目次

1. 研究会の目的と課題	1
2. 検討結果の要旨	
3. 検討内容	
(1) おきしまの魅力	
① 優しさと親しみのある島	
(2) インターンシップ事業	
① また訪れたい島	
② 沖島ではインターンシップを楽しみにしている	2
(3) おきしま通船振興への課題と対策	
① インターン経験者との繋がりを構築し将来の船長候補としての可能性を繋ぐ	
② 地域と観光客を両立させる為の通船運営を目指す	
③ 女性船長の募集やまち起こし協力隊募集の検討	
④ 効率化する事により「失うもの」と「得るもの」を考える	3
⑤ 新たな取組みとして通船と自転車のコラボや合宿免許の検討	
⑥ おきしま通船への思い	4
○参加者	
○意見交換風景	5
○当日資料	

きかせて沖島のこと！若人の集い（研究会）報告書

1. 研究会の目的と課題

この事業は沖島通船の振興に関して取り組む事業の一つであり、沖島通船の運営に参加した貴重な人材を呼び戻し沖島通船の船長を確保するため、これまで活躍してくれた若い方との繋がり方や連携への取組みについて検討する事を目的とする。

これまで沖島で活躍した若人は多く、沖島で多角的な活動を行っている。

よって、今回の検討が総花的になる事を避けるために、検討内容をおきしま通船の振興に絞る事とし、今回参加する若人をおきしま通船インターンシップに参加した方とした。

今回、若人の集いを始めるにあたり沖島通船の課題として3つの課題を提供。

- i 新船長の採用
- ii 通船改修費の確保
- iii 通船利用者の誘致

2. 検討結果の要旨

- インターン経験者との繋がりを構築し将来の船長候補としての可能性を繋ぐ
- 地域と観光客を両立させる為の通船運営を目指す
- 女性船長の募集やまち起こし協力隊募集の検討
- 効率化する事により「失うもの」と「得るもの」を考える
- 新たな取組みとして通船と自転車のコラボや合宿免許の検討

3. 検討内容

(1) おきしまの魅力

① 優しさや親しみのある島

インターン経験者からおきしまの魅力について意見を伺ったところ、「いきなり声をかけても返してくれる」、「来てすぐに打ち解けることができた」など人の優しさや親しみやすさを感じたと言う意見が多く出された。

一方で、弓削にも同じ様なところもあるが、沖島の方が発展している印象を受けたとの意見も出された。

(2) インターンシップ事業

① また訪れたい島

多くの参加者は、インターンの参加を先輩から話を聞いて決めており、OBやOGと沖島が繋がっていると多くの経験者から意見として出された。

また、経験者の多くは、また沖島を訪れたいと考えていることも、今回の意見交換で知る事ができた。

きかせて沖島のこと！若人の集い（研究会）報告書

②沖島ではインターンシップを楽しみにしている

沖島自治会ではインターンシップ期間中は子供の声・若い人の声が聞こえてきて島内が活気づいていた事やインターンシップを島の皆が楽しみにしているとの発言があった。

また、今回開催した若人の集いにインターン経験者が来てくれた事に対し、感動していると自治会が学生に伝えた。

(3) おきしま通船振興への課題と対策

①インターン経験者との繋がりを構築し将来の船長候補としての可能性を繋ぐ

沖島を介して学生間の繋がりがあはる事は意見交換の中で明らかとなったが、沖島自治会ではOBやOGとの繋がりが希薄であり情報発信さえ出来ていなかった。

沖島に若い人の力を呼び込むためには、沖島が進んで繋がりを求めていく姿勢が必要であるとの事から、インターンの学生との共同によりOBやOGと沖島を繋ぐためのメーリングリストを作成し、沖島の魅力や取組みの情報発信により、若い船長就任という将来を見据えた可能性へと繋いでいく事とした。

また、外部から若い船長を受け入れる為には雇用面から受入体制の充実を図る必要がある。現在は自治会運営であるが、若い人材の採用を実現させるためには、おきしま通船会社の設立も一つの選択肢として検討する必要がある。

②地域と観光客を両立させる為の通船運営を目指す

平成11年から沖島住民の足として自治会が独自に運営してきた沖島通船であったが、近年は観光地としての知名度が上がり、季節限定ではあるが観光客の利用が多くなってきた。

平成21年には古くなったおきしま通船に変わる新造船の就航を行い、更に時代の要請により運行本数も増便を重ね、現在12便を運航している。

このような状況の中で、自治会の運航に対する責任と運営費用への負担は大きくなっている。

今後、通船の運航目的を明確にする必要がある。「沖島住民の足として運航するのか」、「観光客の為の運航とするのか」との意見に対し、「地元の足と観光を両立させることが必要である」との意見が自治会から提案された。

後述する船長確保の問題も存在する中で、費用対効果を反映した経営戦略を立てる事が重要である。

③女性船長の募集やまち起こし協力隊募集の検討

沖島通船では船長への負担と通船の安心で安全な運航の確保を目的に、70歳定年制を導入している。この事により3年後には2名の船長が定年を迎える事となり、3年後以降の

きかせて沖島のこと！若人の集い（研究会）報告書

通船運航に見通しが立っていない。

検討の中で、自治会員のボランティアによる船長確保との提案もあったが、高齢化率 40% を超える沖島自治会には就任できる方を確保する事が出来ない状況にあり、船長の確保が喫緊の課題であるとの意見が自治会より出された。

沖島内の自治会員によるボランティア船長についても可能性を探る一方で、船舶免許を所有する女性船長の採用も視野に入れたパートタイム船長を島外から募集する提案があった。この案には通船部会長から、「通船の安全運航確保の面で問題があるのではないか」との意見が付され、今後の検討課題となった。

また、総務省のメニューであるまち起こし協力隊の活用による、3 年程度の期間限定船長募集との提案もあった。まち起こし協力隊の期間終了後には、そのまま協力した町に住む隊員も多くいることから有力な提案であり、パートタイム船長と併せて今後の検討とした。

④効率化する事により「失うもの」と「得るもの」を考える

おきしま通船部会から、乗船券のチケット化についてどう思うかと学生へ問いかけがあった。

その問いかけに学生から、「季節によって乗船客が多いときに船内でチケットを販売するのは大変である」、「初めての乗客はどこでチケットを買うのか分からずに迷っている」、「混雑時の釣銭の受け渡しが大変である」など現状の問題を指摘する発言がある一方で、顔が見えるチケット販売にはぬくもりがあるとの意見もあった。

おきしま通船のシステムを今より更に効率化する事によって、「失うもの」と「得るもの」を十分に議論する事が大事であるとし今後の検討課題となった。

また、分かりづらいに関連し、「沖島港自体が分かりにくい」、「観光駐車場が少ない」などの意見も出た。

⑤新たな取組みとして通船と自転車のコラボや合宿免許の検討

通船の振興の議論の中で、多くの取組み提案が出された。

沖島での移動は主に自転車であり、インターンシップ期間に移動手段として自転車があると良いと思ったことから、沖島を訪れる観光客にも需要があると考え、通船と自転車のコラボが提案された。

また、沖島の子どもや孫の世代には沖島に戻る為に必要な、船舶免許の取得を今後も計画しなければならないとの意見に、沖島で免許取得が可能であるならば空き家を活用した合宿免許が出来ないかとの提案もあった。

また、沖島は未だアナログであり、動画配信など魅力発信として比較的導入し易い SNS を活用したツールで取り組んでみたいとの意見も出された。

きかせて沖島のこと！若人の集い（研究会）報告書

◎おきしま通船への思い

- おきしま通船は自治会が運営する航路として成功している素晴らしい事例である。今後も地域主導によるおきしま通船の運営を考えたい。
- 船長の後継者問題では残された時間は短い。顧客サービスの面を考えながら短期・中期・長期の戦略を立てたい。
- 沖島に集まるNPOの方々や若い力を活用しおきしま通船の振興から沖島の文化と伝統の継承へと進めたい。

4. 参加者

➤沖島

西居 英治(沖島自治会長)・茶谷 文雄(離島振興推進協議会会長)

茶谷 昭法(沖島コミュニティーセンター長)

西居 明一(おきしま通船部会長)・久田 清・小川 三弘・南 幸則・北村 一夫・久田 実

➤インターン経験者

田畑 匡啓・神野 義久・作 彩歌・殿山 詩乃・八原 凜

➤オブザーバー

弓削商船高等専門学校：益崎 真治(副校長)・多田 光男(教授・教務主任)

日本財団：青木 透

(株)日吉：梶田 由胤

NPO：日下 暁子

➤事務協力

津田・石原・益崎

➤報道

大村

きかせて沖島のこと！若人の集い（研究会）報告書



きかせて沖島のこと！若人の集い（研究会）報告書

（当日資料）

きかせて沖島のこと！ 若人の集い（研究会）

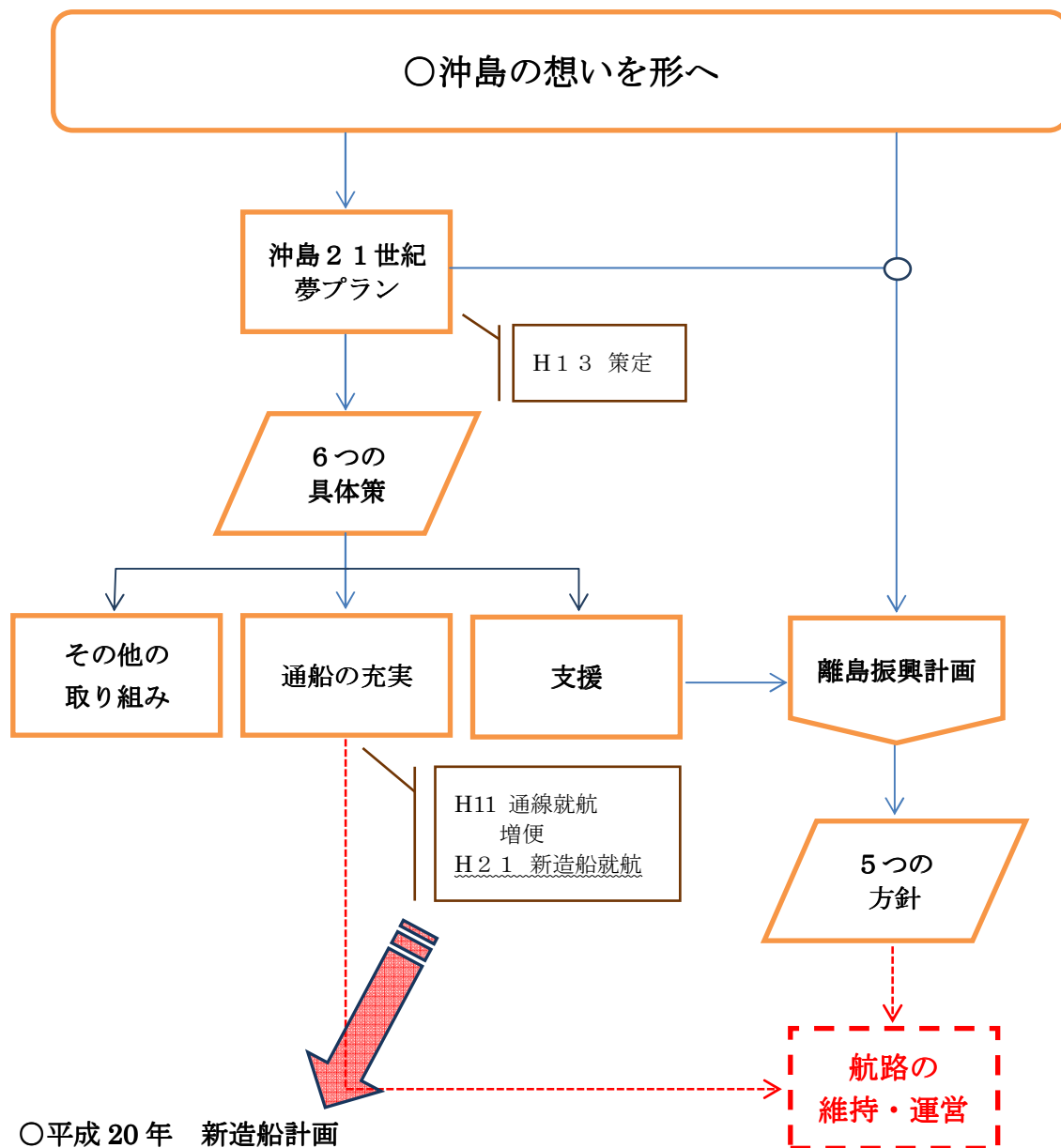
平成27年8月23日（日）
沖島コミュニティセンター
10:00～

1. 開会
2. 沖島町離島振興推進協議会会長挨拶
3. 経過説明
4. 課題提供
5. 意見交換
6. まとめ
7. 閉会（西居沖島自治会長）

資料-1

きかせて沖島のこと！若人の集い（研究会）報告書

(当日資料)



○平成20年 新造船計画

資金調達

→ 支援（補助金）の調査

→ 国	→ なし
→ 県	→ なし
→ 市	→ なし
→ 離島航路法	→ なし（離島振興適用地域のみ）

交通エコロジー・モビリティ財団（日本財団）

【海上交通バリアフリー施設整備助成】

➢ 沖島自治会の独自の取り組みが認められ助成率の上乗せ

➢ 日本財団様による課題解決に向けた事業の実施

きかせて沖島のこと！若人の集い（研究会）報告書

(当日資料)

○琵琶湖・沖島における通船インターン事業とは

[目的]

- 琵琶湖・沖島と本土を結ぶ「命綱」である通船の運営をサポートし、島のコミュニティ衰退に歯止めをかけるための取り組み。

[実績]

- 平成21年度から平成25年度まで商船高等専門学校の学生35名が参加し、沖島通船を体験している。

[平成27年度事業]

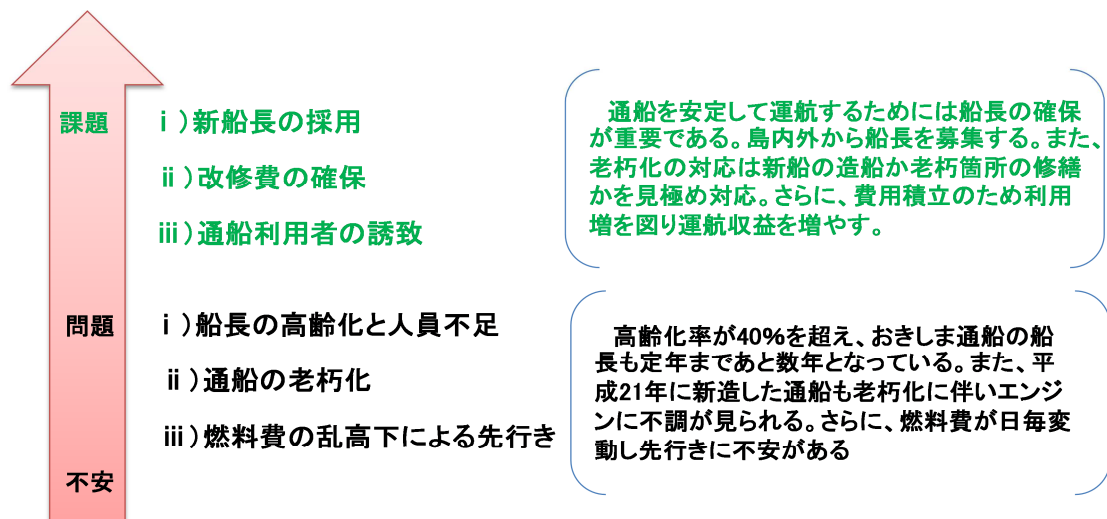
- 弓削商船高等専門学校から5名学生が参加
- 若人の集い

沖島としてこのチャンスを「どのように活かしてきたか」を検証、又は「どのように活かしていくのか」を検討する必要があるのでは？

《目指すおきしま通船の振興》

おきしま通船の振興とは

安全で安心な運航を確保しつつ独立採算性を高め 地域の足として持続する



きかせて沖島のこと！若人の集い（研究会）報告書

(当日資料)

R5 具体策 沖島の未来:づくり

作成日：2002.12.03
場 所：沖島公民館
情報源：推進会議、庁内アポイント委員
作成者：政策推進課

新しく産み出す

湖魚と川魚の共同販売、加工技術の開発、魚の成分の研究開発を行ったり、立地条件や漁船を活用した観光施策を展開し、就労と雇用の効果を上げる。

漁業組合が中心となって、びわ湖の魚を活かした川魚との共同販売、加工の開発を行い、びわ湖の魚の価値を向上させる。 びわ湖産の魚を使って、DHAなどの健康食品を開発する。 漁業組合を中心に料理教室開催や湖魚加工品及び、高齢者の農作物や手作り品を販売する。 山村の漁船との提携により互いの地域の特産品の販売をする。	沖島の立地条件や島民の漁船を活用して観光施策を展開し、そのことで島民の就労、雇用にも効果を上げる。 沖島の自然の利を生かした立地条件を活用し、観光地として整備を行い、そのことで島民の雇用対策にも効果を上げる。 自転車も走れるゆっくりとした散歩道をつくる。 旧石材山跡地を歴史・自然公園として整備する。 空家を活用した町営の休憩所をつくり、雇用を図る。 国民休暇村と提携し、自然を生かした保養目的の観光を進める。 小学校の水泳場を町営水泳場として、整備活用する。 漁船を体験漁業や周遊観光に活用する。
---	--

自然利用

島内のゴミを自然エネルギーで再利用したり、水環境問題にも取り組む環境の島にする。

自然エネルギーで生ゴミを処分し、再利用する実験の島にする。	ゴミのリサイクル運動や水環境問題に取り組む環境の島にする。
-------------------------------	-------------------------------

新しい利活用

遠隔授業、総合学習、特認校制度の導入、沖島小学校同窓会、公共施策や空家の多目的活用により、魅力ある小学校や島づくりを行う。

未利用施設、場所、空家を活用した郷土博物館や研修場の整備、島外からの住みたい人の貸家等を行う。 空家を活用して親子で住み伝統文化を体験できるようにする。 沖島小学校を研修場や博物館として活用する。(跡地も含む) KJ法の研修道場を誘致する。	遠隔授業、総合学習、特認校制度の導入、沖島小学校の同窓会開催などにより、魅力ある小学校、島づくりをする。 遠隔授業、総合学習、特認校制度の導入などにより、沖島小学校を魅力ある学校にして児童増の効果を上げる。 学校間教育システムで、沖島やびわ湖の環境についての総合学習を市内の学校と行う。 ITによる遠隔授業を実施する。 子どもを増やすため、特定認定制度を導入する。 大同窓会を設立し、沖島の未来を語り合う中で意識改革を図り、夢プランを推進し、又検証する。
---	--

いってみたい 保養地・診療所

島内外の人が利用できる医師常駐の診療所や心身の健康づくりと保養の出来る基地をつくる。

尾山を中心に、島内外の人が健康づくりや保養の出来る基地を作り、雇用の確保も図る。	元気な高齢者とふれあい、自然を生かした五感を育て、心を養う基地(老害の郷)をつくる。
島内外の人が利用できるIT診療所を公民館内でなく絶景が見える所につくる。	緊急時に対応できるように診療所に常駐の医師をおく。

便利

島民の不安をなくす為、沖島に行政機関を設け、緊急時の対応、日常的な住民サービスの対応に効果を上げる。

市役所まで行かなくても良いように、沖島で支所的な機能を設ける。	救急艇と救急車の連携システムをつくと共に、ヘリポートを整備する。
---------------------------------	----------------------------------

陸路と航路の一体 交通施策の充実及び港湾施設整備を進める中で、橋を求める究極の目的を探る。

陸路と航路の一体化した究極的な目的を探る。 通勤・通学範囲を広げ駅までの通船とバスの 沖島から近江八幡駅へ行くよう、通船とバス路線を一体化し、運行する。 気軽にバス路線 通船の時間帯を延ばし、増便する。 橋の是非について研究する。	交通施策の充実を進める中で、橋を求め利用しやすい港にするため、各港を用途別けた整備をする。 うみの湖や観光船が寄港できる栗谷港として整備する。 通船が寄港できる小田ヶ浜港を整備する。
--	---

支援

国からの支援を得るため、法改正など法整備を求める。

安心

きかせて沖島のこと！若人の集い（研究会）報告書

2 振興の基本的方針

(当日資料)

○振興の目標を、「琵琶湖の自然と文化を守り、環境を活かした暮らしを創造する安心・安全な沖島 ～クール&スマート アイランド～」と位置づけ、基本的な方針を次のとおりとする。

(1) 自然的特性を活かした生活ができる沖島（都市基盤・交通）

- 航路の維持・運営を図り、人口流出の抑制と、島へのU J Iターン・定住化の促進を進める。
- 琵琶湖の自然に触れ、学ぶ場所としての沖島を、琵琶湖の恩恵を広めるための拠点に位置づける。
- 島内移動の望ましい姿、自然環境にも配慮した沖島らしい移動空間について検討し、必要な対策に取り組む。

(2) 琵琶湖の環境を活かして人々がいきいきと暮らす沖島（生活環境・産業）

- 琵琶湖を内側から見渡すという沖島独自の魅力を活かし、体験、滞在型観光の産業化による振興を図る。
- 豊かな自然環境を活かした産業の育成振興を図る。
- 島内での就業場所の確保と生態系の保全整備を目的に、新商品の開発や、太陽光発電・風力発電等の再生可能エネルギーの研究を進める。
- 水環境をはじめ、環境問題に取り組む環境の島をめざす。

(3) 心を癒す琵琶湖の豊かな自然や文化を守り伝える沖島（自然環境・歴史文化）

- 琵琶湖の自然環境を保全し、歴史的にも文化的にも貴重な沖島を後世に引き継ぐ取り組みを進める。
- 恵まれた豊かな自然環境を活かし、通学区域の弾力化や児童の受入を進めることで島内の活性化や交流の促進を図る。

(4) 健康で安心な沖島

- 守り育てた自然の中で、誰もが安心していきいきと暮らせる沖島をめざし、地域医療体制・介護サービスの充実等を図る。

(5) 災害等に備えた安全な沖島

- 安全で安心できる生活空間を確保するための基盤整備を図る。
- 防災対策の充実を図る。

(滋賀県離島振興計画より抜粋)